修士論文要旨

早稲田大学国際コミュニケーションセンターが提供するLanguage & Culture Exchange（LCE）Program においてパートナーに求められる資質と学びの様相

Analysis of Student Satisfaction in a Language and Cultural Exchange Program at Waseda University

長濱　　澄（Toru Nagahama）　　指導：保崎　則雄

1．研究背景

Language and Cultural Exchangeとは互いの母語とそれに関する文化を学ぼうとする複数の学習者（２、３名が基本）が、学びのパートナーとして交流しながら、教え合い学び合う学習形態である。早稲田大学国際コミュニティセンター（ICC）はLCEプログラムを継続的に実践し、開始以来９年間で11676名の参加者が得られた。しかしながら、これまでに収集された自己振り返りレポートにおいて参加者がプログラム終了後にどのような振り返りを行っているのか、そして、実際にLCEがどのように実践されてきたのかについて調査、分析した研究は前例になく、プログラムにおける学びの様相は不明瞭である。

これらを踏まえ、LCEプログラムの実態を明らかにすべく、事前調査として、ICCが2013年度春学期におけるプログラム参加者に課した学期末の自己振り返りレポートに関して、提出された分の195名分を定性的、定量的に分析を進めた。その結果、明らかとなったのが、マッチングに対する満足度とプログラム全体に対する満足度の間に強い相関が見られたこと（Pearson r=0.75,p<.001,n=195）からも明らかであるが、LCEプログラムに対する満足度は、マッチングの良し悪しに大きく影響されるということである。また、マッチングに関して、自由記述の内容から、「Affability of the partner」、「Common Interests」、「Age & Gender」、「Similar Experience」、「Level of Motivation」の５つの項目が満足度に大きく影響していることが明らかとなった。

2．目的と方法

本研究の目的は、LCEプログラムにおいて、パートナーに求められる資質を明らかにすること同時に、それらの資質が学習者間の相互的な学びにおいてどのように影響しているのかを明らかにすることである。それらを明らかにすべく、「理想のパートナーに求める資質」に関する質問を５段階尺度評価にてオンライン上で回答してもらった。その結果について、因子分析法を用いて定量的に分析を行う。

表１　パートナーに求められる資質　因子分析結果

	Factor			
Your partner	1	2	3	4
ponits out your grammatical errors	0.893			
is highly motivated toward his/her learning	0.775			
corrects your pronunciation	0.726			
has ample knowledge about his/her country's culture	0.516			
is tolerant of your grammatical errors	-0.5			
adjusts his/her vocabulary to your language proficiency level		0.962		
adjusts his/her speaking speed to your language proficiency level		0.954		
is tolerant of your pronunciation		0.427		
shares a similar educational background to you			0.875	
has ample knowledge about your country's culture			0.677	
is the same gender as you			0.635	
is the same age as you			0.487	
has a cheerful personality				0.729
has a sense of humor				0.68
is sociable				0.593

また、事前調査の時と同様に、振り返りレポートの自由記述項目（提出された182名分）と実際のLCE実施場面をビデオカメラとICレコーダを用いて記録した発話プロトコルを定性的に分析する。

3．結果と考察

パートナーに求める資質に関する回答結果について、因子分析法を用いて分析を加えた所、４つの因子が抽出された。表１に分析結果を示す。抽出された因子をそれぞれ、１）Responsibility、２）Adjustment、３）Similarity、４）Personalityと命名した。これらを踏まえ、自由記述の内容に加えて、発話プロトコルについて定性的に分析しところ、LCEプログラムにおいては、望ましい人間関係の構築が成功の鍵であることがわかった。単に留学生の友人として収束するのではなく、Responsibilityを発端にして学びのパートナーとなることで、言語、並びに、相手文化への理解が深まり、結果的にLCEにプログラムに満足をするというのが成功例の定石であるといえる。また、共通の趣味、経験などが会話のトピックになることで、会話が弾み、より深い内容の会話が「Similarity」が発端となって生じ得る可能性も示唆された。これらのことから、人間関係を構築していく上で、LCEパートナーには、Responsibility、Adjustment、Similarity、Personalityの４つの資質が必要とされているといえる。これらを踏まえて、今後求められるのは、人間関係の構築と学びに関するより長期的な調査であると同時に、実際にLCEプログラムにどのような効果があるのかを明らかにする必要があろう。